

出資法人等評価・カルテシート（平成 30 年度分）

1 出資法人等の概要

| | | | |
|---------|---|-----------|---------------------|
| 団体名 | 公益財団法人とよなか国際交流協会 | | |
| 所在地 | 豊中市玉井町 1 丁目 1-1-601 | 所管部局・課 | 人権政策課 |
| 設立年月日 | 平成 5（1993）年 11 月 18 日 | 代表者 | 理事長 松本康之 |
| 基本金・資本金 | 200,000,000 円 | うち市出資額（率） | 200,000,000 円（100%） |
| 設立目的 | <p>この法人は、豊中市、関係団体等と連携を図りながら、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動を推進することにより、世界の多様な文化及び人々との相互認識と理解を深めるとともに、地域の国際化を促進し、新しい地域文化の創造と平和で平等な地域社会づくりに寄与することを目的とする。</p> <p>（1）国際交流の機会提供及び参加促進事業 （2）国際理解及び国際化に関する啓発・研修事業 （3）国際交流に関する情報の収集及び提供事業 （4）民間団体の国際交流活動に対する支援事業 （5）国際交流に関する調査及び研究並びにその受託事業 （6）国際協力に関する事業 （7）在住外国人に対する支援事業 （8）その他上記の目的を達成するために必要な事業</p> | | |

2 役員・職員関係

各年 4 月 1 日現在

| | | H28 | | | H29 | | | H30 | | |
|--------------------------|-----|-----|-----|---|--------------------------------|-----|---|-----------------|-----|---|
| | | 市派遣 | 市OB | | 市派遣 | 市OB | | 市派遣 | 市OB | |
| 役員 | 常勤 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 |
| | 非常勤 | 14 | 0 | 1 | 11 | 0 | 1 | 10 | 0 | 1 |
| 職員 | 常勤 | 4 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 | 6 | 0 | 0 |
| | 非常勤 | 6 | 0 | 0 | 8 | 0 | 0 | 7 | 0 | 0 |
| 役員の平均年間報酬（H29年度、千円）※常勤のみ | | — | | | 職員の平均年間給与（H29年度、千円）・平均年齢 ※常勤のみ | | | 4,324 千円・39.4 歳 | | |

3 財務関係

| | | 金額（千円） | | |
|-------|----------|--------|--------|--------|
| | | H27 | H28 | H29 |
| 損益計算書 | 総収入 | 64,328 | 80,444 | 79,498 |
| | （うち市受入金） | 54,112 | 70,672 | 68,404 |
| | 総費用 | 60,904 | 85,683 | 74,944 |
| | 経常損益 | 3,574 | ▲5,309 | 2,675 |
| | 当期損益 | 3,408 | ▲5,482 | 2,471 |

| | | 金額（千円） | | |
|-------|-----------|---------|---------|---------|
| | | H27 | H28 | H29 |
| 貸借対照表 | 資産の部合計 | 222,696 | 225,470 | 226,711 |
| | 負債の部合計 | 5,663 | 13,918 | 10,689 |
| | （うち有利子負債） | 0 | 0 | 0 |
| | 純資産 | 217,033 | 211,552 | 216,023 |
| | 利益剰余金 | 17,033 | 11,552 | 14,023 |

4 市の財政的関与の状況

(単位：千円)

| | | H27 | H28 | H29 | 主な内容、算出根拠等 |
|------|---------|---------|---------|---------|------------|
| フロー | 補助金 | 0 | 0 | 0 | |
| | 事業費 | 0 | 0 | 0 | |
| | 運営費 | 0 | 0 | 0 | |
| | 委託料 | 4,816 | 9,040 | 6,772 | |
| | 指定管理委託料 | 49,296 | 62,932 | 62,932 | |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | | 54,112 | 71,972 | 69,704 | |
| ストック | 貸付金残高 | 0 | 0 | 0 | |
| | 債務保証残高 | 0 | 0 | 0 | |
| | 損失補償残高 | 0 | 0 | 0 | |
| | 出資金 | 200,000 | 200,000 | 200,000 | 平成5年11月出捐 |
| | その他 | 0 | 0 | 0 | |
| 計 | | 200,000 | 200,000 | 200,000 | |

5 経営の状況

(1) 出資法人等の主な事業

| 事業名 | 事業内容 | 活動指標 | H27 | H28 | H29 |
|-----------------------------|--|---|--------------------|--------------------|--------------------|
| 市民主体の国際交流活動推進事業 【指定管理事業】 | 情報サービス事業：情報を市民に発信するために実施している（「とよなかこくさいこうりゅうきょうかいのおしらせ」の発行等） ホストファミリー・留学生交流事業：留学生とのホームビジットの形式で半年から1年の交流を行っている 市民活動協働推進事業：「共同デスク」等中間支援組織同士が情報交換をしながら市民活動の層を厚くするために発信を行っている | おしらせ発行部数（部） ホストファミリー交流企画参加人数（人） 共同デスク会議開催数（回） | 28,800 305 8 | 28,800 435 7 | 28,800 114 6 |
| おとな国際事業 【指定管理事業】 | にほんご活動事業：地域で暮らしている外国人市民が、出会い、交流し、対話し、日本人との新たな双方向の関係を結んでいける機会をつくっている（「もともとつかえるにほんご」・「とよなかにほんご」・「にちようがちゃがちゃだん」・「おやこでにほんご」等） | にほんご活動参加人数（人） 開催回数（回） | 8,225 286 | 8,137 285 | 9,912 330 |
| 持続可能な地域づくり事業 【自主事業】 | 「ESDとよなか」事業：次代に向けて持続可能な地域づくりのために情報交換している メディアリテラシー市民ゼミナール事業：メディア研究者等とチームを組み、メディア分析を行う市民講座を通して社会を捉えなおす講師等の派遣をしている | ESDとよなか連絡会議（回） メディアリテラシー市民ゼミナール参加人数（人） | 8 22 | 8 30 | 6 12 |
| 持続可能なひとづくり事業 【指定管理事業】 | ボランティア養成・ボランティア研修事業：事業に関わるボランティアの研修を行っている（ボランティア研修事業・「哲学カフェ」など） | 参加人数（人） | 508 | 486 | 354 |
| 子ども国際事業 【指定管理事業】 | 韓国・朝鮮のこぼとあそびのつどい：韓国・朝鮮にルーツをもつ子どもたちのために、出会い、つながり、自己肯定感を持つ場をつくるために実施している 「おまつり地球一周クラブ」：地域の小中学生を対象にした国際理解プログラムを実施している | こぼとあそびのつどい参加人数（人） 「おまつり地球一周クラブ」参加人数（人） | 302 236 | 285 244 | 211 140 |
| おとなサポート事業 【指定管理事業】 | 相談サービス事業：多言語で安心できる相談機能を提供すると同時に、地域で孤立している外国人へのアウトリーチ、外国人の自立サポートを行うとともに、他事業から派生する外国人のサポートシステムとしても機能するよう実施している | 相談件数（件） | 973 | 1,146 | 958 |

| | | | | | |
|--|---|--|---|---|---|
| 子どもサポート事業 【指定管理事業】 | <p>多文化子ども・保育事業：地域に暮らす就学前の外国人の子どもたちが多様な子どもや大人に接し、コミュニケーションをとることで社会生活に慣れるための場づくりとして、また保護者が子育てについて相談したり、地域の情報を得たりできる場づくりとして実施している（「多文化子ども保育にここに」、「多文化子育て支援ボランティア養成講座」）</p> <p>子ども母語・学習支援「サンプルイス」事業：外国にルーツを持つ子どもが母語や文化を学ぶことを通じて、仲間と出会う場づくりとして、また日本語・学習支援を通じた居場所づくりとして実施している</p> | <p>多文化子ども保育にここに 開催回数（回） 参加人数（人）</p> <p>多文化子育て支援ボランティア養成講座 開催回数（回） 参加人数（人）</p> <p>子ども母語 開催回数（回） 参加人数（人）</p> <p>サンプルイス 開催回数（回） 参加人数（人）</p> | <p>92 766</p> <p>3 67</p> <p>92 344</p> <p>42 856</p> | <p>93 819</p> <p>3 98</p> <p>96 229</p> <p>40 541</p> | <p>90 873</p> <p>3 62</p> <p>97 339</p> <p>44 467</p> |
| 小学校英語外国語体験活動事業 【豊中市教育委員会受託事業】 | <p>小学校英語外国語体験活動事業：小学生を対象に、異なる文化・言葉・背景を持つ人の存在を通して、国際理解や共生していこうとする姿勢、外国語を使用してコミュニケーションを図る積極的な態度を身につける機会を提供するために実施している（小学校英語外国語体験活動事業）</p> | <p>体験人数（人）</p> | <p>37,500</p> | <p>37,500</p> | <p>39,000</p> |
| 施設管理受託事業 【指定管理事業】 | <p>国際交流・男女共同参画目的貸室業務、一般利用目的貸室業務及び、一般市民に対する授乳室利用対応を行っている</p> <p>「デザイン5」：指定管理受託期間の協会・活動を市民と共に考えて工夫していくための市民参加の場づくり</p> | <p>センター使用件数（回） 利用人数（人） 「デザイン5」参加人数（人）</p> | <p>5,713 62,914 221</p> | <p>5,798 58,167 -</p> | <p>6,028 60,249 -</p> |

（2）財務指標

| 指標 | 視点 | 内容 | H27 | H28 | H29 |
|--|-----|--|--------|--------|--------|
| 市受入金比率 市受入金／経常収益×100 | 自立性 | 市への財政的依存度を表わします。一般的に数値が低いほど、財政的に自立性が高いといえます。 | 84.1% | 87.9% | 88.3% |
| 人件費比率（％） 人件費／経常費用×100 | 効率性 | 数値が低いほど財務の弾力性が高いといえます。総支出における相談業務等のマンパワーが業務の中心となる団体については高くなる傾向にあります。 | 48.7% | 47.0% | 46.1% |
| 管理費比率（％） 管理費／経常費用×100 | 効率性 | コスト体質を表すもので、一般的に数値が低いほど効率が良いとされます。 | 2.9% | 3.6% | 3.7% |
| 正味財産比率（％） 正味財産合計／（負債＋正味財産合計）×100 | 安全性 | 負債及び正味財産合計に対する正味財産合計の割合。自己資本の比率が高いほど資本構成が良く、経営の安全性が高いといえます。 | 97.5% | 93.8% | 95.3% |
| 固定比率（％） 固定資産／正味財産合計×100 | 安全性 | 正味財産合計に対する固定資産の割合。固定資産を返済不要な正味財産合計でまかなわれているかを表します。100%未満であれば安全性が高いといえます。長期的な経営の安全性を示しています。 | 96.8% | 100.5% | 97.3% |
| 流動比率（％） 流動資産／流動負債×100 | 安全性 | 1年以内に返済を要する負債に対する1年以内に資金化できる資産の割合。数値が高いほど支払い能力が高いといえます。100%を下回る場合は注意が必要です。 | 220.0% | 92.0% | 153.7% |

| | | |
|----------------------------|--|---|
| | <p>施、③支援事業の担当職員を対象としたスーパービジョンの実施（臨床心理士による）、④勤務2年目の職員を対象とした定期的なミーティングを行いました。</p> <p>事務局を支える体制の整備について、平成29年度から理事、監事、評議員によるワーキンググループを再開しました（開催は1回のみ）。</p> | <p>事務局を支える体制の整備について、平成29年度は役員によるワーキングチームを1回しか開催することができませんでした。平成30年度は事務局の体制に改善を加え、複数回開催する予定です。</p> <p>事務局内部の体制整備及び事務局を支える体制を整えることで、より安定的かつ発展的に仕事に取り組みます。</p> |
| <p>自主財源比率の拡大</p> | <p>自主財源比率の拡大を図るために、受託事業や助成金事業等による自主事業に取り組むと同時に、賛助会員の増大や献金・募金・寄付金等の要請活動のための地域や企業回りをを行い、自主財源の確保に努め、寄付金も増額しました。</p> <p>また、日常的な取組みに加え、期間限定で集中的な取組みも行いました（夏季募金、冬季募金）。</p> <p>さらに、行政機関や市内の様々な団体、個人等を対象に、当財団の説明及び関係者間の交流を目的とした新春の集いを開催し、そこでも賛助会員や寄付金等の募集を行いました。</p> <p>いずれの場合においても、市民向け年次報告書（オールカラー版）を配布し、市民に広く広報すると同時に、議会、行政各課、市内の様々な団体や個人へ広報活動を行いました。</p> | <p>今年度は発信力の向上を目指して、これまでの取組に加えて、当財団のホームページの刷新作業を完了させ、丁寧で幅広い発信に努めます。</p> <p>また、今年度は当財団設立25周年にあたりますが、これまでの取組をまとめた書籍を出版する予定です。当協会の取組について「より広く」だけでなく、「より深く」知ってもらうためのツールとして積極的に広め、理解者を増やしていきます。なお、出版に必要な経費の一部はクラウドファンディングで賄うなどし、より効率的に出版を行うことを目指します。</p> <p>さらに、役員によるワーキングチームで「事業者・周知・広報・ファンディング」をテーマとした取組を進める予定であり、職員だけでなく役員と一体となって賛助会員の増大と献金・募金・寄附金等の協力金要請活動、収益事業についての検討を行います。</p> <p>このほか、賛助会員や寄付での応援の第一歩は知ってもらうこと、ということで気軽に足を運ぶことができるセミナー、イベントを実施します。</p> <p>今後も地域における認知度を高めながら、自主財源の拡大、経営基盤の一層の安定化を図ります。</p> |
| <p>専門性と資質向上のための研修制度の確立</p> | <p>平成27年度から行っている研修制度（経験年数別の研修や管理職研修）、自己啓発ができる研修制度（職免）のほか、定期的に職員研修を行いました（外部の研修会への参加も含む）。</p> <p>また、支援事業担当の職員については、臨床心理士によるスーパーバイズセッションを定期的に行い、勤務2年目の職員に</p> | <p>様々な支援事業や中間支援組織としての責務と役割のために、ややもすると職員は充電ができず、日々放電状態が続くことが多くなります。昨年度と同様に、研修制度、自己啓発ができる研修制度（職免）、スーパーバイズやミーティングによる振り返り、大阪府内のほかの国際交流協会の訪問・視察を組み合わせながら職員の資質</p> |

| | | |
|-----------------|---|--|
| | <p>対しても振り返りの場を提供及びフィードバックを行うため、定期的にミーティングを行い、専門性の向上を図りました。</p> <p>さらに、大阪府内の国際交流協会とのネットワークを利用し、相互に他団体を訪問・視察し、業務遂行の方法や工夫、課題について学ぶ訪問型研修も行いました。</p> <p>研修（講義等）と訪問・視察による知識やアイデア、ノウハウ、刺激の吸収とスーパーバイズやミーティングによる振り返りを組み合わせることで、いろいろな角度から自分たちの業務の振り返りを行い、専門性と資質向上に努めました。</p> | <p>向上に努めます。</p> <p>さらに、事務局のサポートを行う形で役員ワーキングチーム（前述の「事業者・周知・広報・ファンディング」に加え、「子ども・若者・教育」や「地域・防災・コミュニティ」）をテーマとしたワーキングチームによるミーティングを行い、日常の業務を行いながら、役員が持つ専門的な知見や経験などを学べる環境を作ります。</p> |
| <p>事業の精選と拡充</p> | <p>平成 29 年度も市民・学生ボランティア等による主体的で広範な参加により、全 29 事業や様々なイベントの活性化を図り、充実した取り組みを実施しました。</p> <p>新規の事業としては、平成 28 年度に実施した高齢者調査事業の調査結果をふまえ、フィリピン人のコミュニティ活動を開始しました。また、千里では日本語交流活動「千里にほんご」をスタートしました。いずれもボランティアとの協働により運営しています。</p> <p>そのほか、豊中市、大阪大学とは災害時の対応や外国人への多言語情報の提供方法や体制に関して、協議を進めています。</p> <p>一方で、財団のミッションとニーズをふまえつつ、広がる事業のスリム化と同時に、時代や地域の新たなニーズに沿った新規事業を行うための検討の必要性について、職員研修の場でも改めて確認されました。</p> <p>今後、引き続き、市民との意見交換の場や職員研修、理事会、評議員会、ワーキンググループなどをおして検討を続けていきます。</p> | <p>当協会では毎年、事業に参加している市民・学生ボランティアによる事業評価会を実施しています。</p> <p>事業評価会では事業の拡充に関連することとして、事業間のつながりを充実させること、外国人コミュニティ間の交流を促進すること、事業を含め、協会自体の周知・広報を充実させる必要があることが指摘されました。どういう形で実現させるか、各事業のボランティアと意見やアイデアの交換を進めていくことから始めていきます。</p> <p>また、事業の精選については、まずは外国人の増減や状況の変化の把握を行うことから始めていきたいと考えています。</p> <p>今後とも市民・学生等のボランティア等との協働・連携を行いながら、取組を進めていきます。</p> |

8 出資法人等の自己評価

| 評価の視点 | 評価 | 今後の取り組み方針 |
|--|---|---|
| <p>必要性 実施事業は、社会状況、環境変化や市民ニーズに適合しているか</p> | <p>日本に暮らす外国人、日本を訪問する外国人は増加の一途をたどっています。日本社会の少子化、労働力不足が進むにつれ、外国人が住む地域や就く仕事もますます広がりを見せています。政府は今後も外国人労働者の受け入れを進める方針を出しており、ますます外国人の数は増えることが見込まれます。豊中市においてもこの数年の外国人数は急増することでしょう。</p> <p>日本に暮らす（短期滞在も含む）外国人は、その目的や属性、背景も多様化が進んでいます。日本語が理解できない、社会制度やシステムが十分に理解できない、身近に友人や相談相手がいらない等により、生活上の困難を抱える人が増えています。</p> <p>このような社会情勢のなかで、財団は豊中市における国際交流活動の拠点であるとなかなか国際交流センターをベースに、外国人への総合的支援事業と人権尊重を基調とした国際交流活動と多文化共生社会の推進に努めてきました。</p> <p>地域で暮らす外国人が孤立せずに安心して暮らせるように、また日本人も外国人との交流を通じて豊かな学びが得られるように努めてきました。日本語交流活動、相談サービス、多文化保育、子ども母語・学習支援、若者支援、留学生・ホストファミリー、多文化共生&国際理解推進、小学校外国語体験活動、講師派遣など、全29事業を展開しています。</p> <p>相談事業ではDV・就労・離婚等の問題や子どもの養育・教育等の問題への対応を行いました。子ども事業では外国につながる子どもたちの居場所、学びの場の提供を行いました。日本語交流活動やホストファミリー事業では多くの市民がボランティアとして参加し、外国人の支援としての機能だけでなく、市民の学び、社会参加の機会ともなっています。地域で暮らす外国人の多様化に合わせ、多様な事業を幅広い市民の参加により実施しています。</p> <p>ボランティアとして参加する市民の数は490人（延べ数）にもなります。</p> <p>一方、豊中市の南部地域活性化という課題に対して、財団としても、南部地域で活動する団体や個人と協働・連携して、子どもの学習支援を定期的（週1回）に実施しています。この間、南部地域での人のつながりも広がってきており、今後も継続的に南部地域の活性化に関わっていきます。</p> <p>また、東南海地震が近々起こり得ると想定されている中、豊中市、大阪大学と共に災害時の多言語支援センター設置や平時の災害対策・準備を進めています。</p> <p>さらに、ある集合住宅において外国人住民が増えたが、どのようにコミュニケーションを取ればよいかといった相談や、外国人を雇用した事業者からコミュニケーションや支援の在り方について相談を受けることなどが増え、そのニーズに対応できるよう少しずつアウトリーチも始めています。</p> <p>地域に暮らす外国人の状況やニーズに合わせた事業展開に加え、豊中市としての地域課題</p> | <p>今後も外国人がますます増加することが予想される中、豊中においても国際交流協会の果たす役割は拡大し、これまで以上に重要になってきます。</p> <p>これまで以上に重要になってくる役割を果たすため、まずはより多くの人を知ってもらい、そこから実際に足を運んだり、協力してもらったりできるよう広報に力を入れていきます。センターお知らせや当財団のウェブサイトの刷新、継続的な地域や企業回りなどを行います。その中で日常活動の内容についても多くの人に知ってもらい、必要な支援が必要な人に届くように努めます。知ってもらうことで既存の事業を活用にとどまらず、新たな地域課題の発掘につながると考えています。</p> <p>そういったニーズの増大に備え、既存の事業においては、体制整備、課題解決に向けた取組を進めます。事務局、協会ボランティア、市民団体との間で積極的な情報及び意見交換を進め、個々の事業の課題解決につなげていきます。</p> <p>南部地域活性化という課題については、すでに実施している子どもの学習支援のほか、今年度は若者支援事業において地域交流、社会参加を企画しています。若者支援を行うと同時に地域の活性化に寄与する方法について試行的にイベントを行う予定です。</p> <p>また、南部地域では児童・生徒数の減少を受け、小中一貫校の設立に向けた準備が進められています。このことはこれまで各小中学校において散在、ともすれば孤立していた外国につながる子どもをもつ児童・生徒が一つの学校に在籍することになります。小中一貫校ができるからこそ、進められる事業について関係機関とも協議を行い、財団だからこそ協力・貢献できることについて検討・準備を進めます。</p> <p>こういった取り組みを通じて南部地域で活動する団体や個人との協働・連携をより積極的に進めていきます。</p> <p>防災については、昨年度多言語支援センターの設置マニュアルの検討を始めましたが、それをより具体的なものにし、災害時に必要な実務的な準備を進めます。さらに外国人向けの減災のセミナーや防災フェアなどの開催、外国人コミュニティの支援、外国人コミュニティ間のつながり作りを進めることで、災害に強い地域づくりを目指します。</p> <p>また、引き続き、地域から寄せられる相談については情報提供や講師派遣、イベントの共催など、相談内容に即した対応を行っていきます。</p> <p>これらの取り組みを通じて、外国人の課題、地域の課題の双方に対応しながら、地域の多文化共生と国際交流を進めていきます。</p> |

| | | |
|---|--|---|
| | <p>も踏まえた事業展開を行うことで、まさに豊中における多文化共生及び国際交流を推進しています。</p> <p>なお、センターの年間利用者数は84,755人（昨年度比2,082人増）で前年度より増加しました。うち外国人が約40%を占めており、豊中市の外国籍住民比率1.3%を大きく上回っていることから、幼児から高齢者まで多様な人々が安心して気軽に集える場（センター）になっていると言えます。</p> <p>引き続き、外国人が地域社会の一員として安心して暮らすことができるよう取り組んでいます。</p> | |
| <p>効率性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人的・物的な経営資源は有効に活用しているか ・組織体制、人事給与水準は適正か | <p>日本語交流活動、相談サービス、ホストファミリー、子ども・若者支援事業など全29事業において、490人の市民・学生ボランティア（外国人市民を含む）の協力によって、地域に住む外国人と日本人の様々なニーズに沿った多様な活動を展開することができています。</p> <p>一方で日本の少子高齢化、外国人の増加に伴う多文化共生の必要性に対して、当財団だけの力では対応しきれない部分もあります。そういった部分については、様々な団体との連携・協力、ネットワークにより事業を行ってきました。</p> <p>センターの登録グループや国際交流団体との連携により豊中市で活動する国際交流団体のネットワークづくりを少しずつ進めています。</p> <p>また、府内の国際交流協会とのネットワークにより、各市国際課や協会が抱える現状や成果、課題の共有、さらには相互に訪問し合う形で研修の機会を創出し、互いに学び合いました。さらに大阪府内の外国につながる子どもの支援に携わっている団体とはネットワークを形成し、外国につながる子どもの支援に関するシンポジウムを行いました。</p> <p>また、とよなか男女共同参画推進財団をはじめとする福祉・環境・スポーツ・人権など豊中市内の様々な分野で活躍する団体との連携により、地域の人的・物的資源と情報を有効に活用することができています。</p> <p>さらに南部地域で活動するさまざまな団体や個人との出会いとつながりを深め、協働と連携により次世代の若者支援や外国人の進路相談等の取り組みが進化充実してきました。</p> <p>当財団を市民が集い、活動する一つの中心としながらも、多様な団体と連携することで豊中市の多文化共生・国際交流の推進につなげています。</p> <p>組織体制、人事給与水準について、一昨年度にも改定を行いました。引き続き、定期的な意見交換の場（職員研修、ヒアリング）などを行っています。また、そういった職員の声を理事会、評議員会でも共有する機会を設けています。</p> <p>経営方針・判断と現場の感覚が乖離することがないよう取り組んでいます。</p> | <p>すでに多くの市民ボランティアの参加により、事業を進めています。改めて、各事業のボランティアへのヒアリングを進めています。ヒアリングの内容から、今後の改善点などを洗い出し、さらに効率的に事業を進めていきます。</p> <p>ネットワークについて、今後も引き続き、事業の協力や連携、情報交換、研修などにも取り組んでいきます。その際、それぞれの機関や団体との間で意思の疎通を図りながら丁寧に進めていきます。</p> <p>また、すでに複数のネットワークが動いていますが、それぞれのネットワークでの動きがばらばらにならないよう、事務局の内部においてしっかりと情報共有を進め、ネットワーク間の動きをつなげたり、連動させたりしながら、より効率的な事業の運営に努めていきます。</p> <p>組織の体制について、引き続き、平成28年度に策定した次世代育成行動計画に基づき、雇用環境の整備を進めていきます。また、理事、評議員、監事による役員ワーキンググループが現場の感覚、状況をもとに丁寧に情報や感覚の共有をしながら事務局と地域の共生と活性化に取り組んでいきます。</p> |

| | | |
|------------------------------------|---|---|
| <p>有効性 ・意図する成果に有効に結びついているか</p> | <p>外国人の移動や社会状況の変化等により、協会事業への参加者数は年によって増減がありますが、一定数の参加を維持しています。数字の面で見ても当財団の事業の有効性は一定担保されていると考えています。</p> <p>また、市民・学生ボランティアは、各事業への関わりの中で、多様な外国人と出会い、語り合うことで、地域に住む外国人が置かれている社会的状況やそれぞれの個々の願いや苦悩などへの理解が深まり、お互いが支え合う関係を築いています。</p> <p>昨年度は主に日本語交流活動に参加している市民の提案により、「千里にほんご」という活動を千里コラボでスタートしました。お互いに知り合うことを通じて、実際に活動を生み出すところまで進みました。</p> <p>活動への参加を通じてお互いを知ることから場を創り出すところまで進んでおり、市民の主体的で広範な参加が地域の多文化共生を進めています。</p> <p>量的、質的の両面において、成果をあげていると考えています。</p> | <p>今年度は豊中市でも外国人数が増加していることを受け、広報に力を入れ、参加者数の増加を目指します。</p> <p>少子高齢化、外国人労働者の受入れを進めている中、外国人及び外国人を受け入れている事業者や学校等とつながり、参加者数の増加につなげます。</p> <p>各事業の状況や課題について、ボランティアと事務局の間で丁寧な共有を行い、必要な取り組みを進めたいと思います。</p> <p>また、昨年度、事業評価会において活動間の情報共有、意見交換が必要だという意見が出たことを踏まえ、事業間の横のつながり作りを進めていきます。</p> <p>さらに、今年度は理事、監事、評議員などによるワーキンググループを進めることで、市民と協働で取り組む活動の環境整備も進めたいと思います。</p> <p>周知、広報の面で参加者を増やすこと、各事業の改善のみならず、事業に取り組む環境の整備を進めることで、昨年以上の成果をあげていきたいと思っています。</p> |
| <p>総合評価</p> | <p>財団の基本理念「市民の主体的で広範な参加により、人権尊重を基調とした国際交流活動を地域ですすめ、世界とつながる多文化共生社会をつくる」は、豊中市の「多文化共生指針」の基本的な考え方と完全に合致しており、その実現に向けての協働・連携の有機的な関係が強く結ばれていると考えています。</p> <p>また、豊中市とも密に情報交換及び役割分担を行いながら業務を進めています。</p> <p>財団がこれまで築き上げてきた実績と独自のノウハウを十分に活かし、効果的で効率的に事業を推進できていると考えています。</p> <p>センター利用者に対するサービス水準もかなり高められ、さらにセンター利用者自身が地域や社会において、市がめざしているまちづくりに大いに貢献していると言えます。</p> | <p>少子高齢化に伴う外国人の渡日が加速する社会情勢を考えると、財団の社会的需要と役割は今後も増大することは明らかです。</p> <p>今後も市民や市、関係機関・団体との協働・連携を進めながら事業及び環境整備に取り組むことで、豊中の多文化共生、国際交流を進めていきます。</p> <p>また、そのことが外国人のための支援、日本人の国際理解の促進にとどまらず、地域のにぎわい、活性化につながるという視点をもって、他分野との連携、協働も積極的に進めていきたいと考えています。</p> <p>今後も外国人の増加が見込まれる中、持続可能かつ豊中市の現状に対応可能な体制を構築するため、組織体制・運営（財政も含む）・ガバナンスの整備にも取り組んでいきます。</p> |

9 市による評価

| 評価の視点 | 評価内容 | 課題・方向性 |
|--|---|--|
| <p>団体の存在意義 (必要性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出資目的は薄れていないか ・ 市の施策の方向性に適合しているか | <p>とよなか国際交流協会は、人権尊重を基調とした住民主体の国際交流活動を推進する事業を行い、平和で平等な地域社会づくりに寄与することを目的として本市の全額出資で設立された財団です。</p> <p>当協会は、外国人の日本への移住・定住などによる外国人市民が増加する中、本市の多文化共生指針、人権文化のまちづくりについて理解を示し、地域に住む外国人市民に対して多言語相談、にほんご教室などの事業や日本人市民との交流事業などを行い、外国人市民が安心して暮らせるまちづくりを推進しています。</p> <p>また、これらの取り組みを通して社会参加を促進しており、市の多文化共生指針の基本理念に合致するものといえます。</p> | <p>当協会は、本市の「多文化共生指針」に沿って、さまざまな社会的・文化的背景を持った人々が人権尊重を基調として、お互いに理解し合い、地域社会の一員として暮らすまちづくりを推進しています。</p> <p>本市においても就労、結婚、留学等により地域に住む外国人はアジア地域を中心として増加しており、協会の役割は大きくなっています。</p> <p>今後も、市民の状況やニーズの多面的な把握を行いながら、さまざまな人・団体とつながり、人権尊重を基調とした、多くの人が交流できる取り組みを展開して今後も多文化共生のまちづくり推進の中心的役割を担ってもらうことを期待します。</p> |
| <p>団体の活動領域 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 出資法人等を活用するメリットはあるか ・ 出資法人等にしかできないことか | <p>当協会の外国人市民の実態把握や、これまで培ってきた経験・ノウハウなどを活かしたさまざまな事業は、市民、団体、ボランティアとのネットワーク作りやニーズに沿った多文化共生のまちづくりの推進に大いに貢献しているものと考えます。</p> <p>また、福祉、環境、スポーツ、人権などさまざまな分野で活躍する団体と連携することにより、地域の人的・物的資源や情報を有効に活用できています。これらの連携による事業展開や、地道な地域・企業回りなどによる国際交流センターの認知度向上、さらに新たな利用者呼び込むとともに、必要な支援が必要な人に届くことができるような取り組みをすすめています。</p> <p>今後も多文化共生のまちづくりの推進に重要な役割を担っていると考えます。</p> | <p>当協会の強みであるこれまでの経験、ノウハウや400人を超えるボランティア、そして地域住民や諸団体とのネットワークを大いに活用して、コーディネーター役も担いながら事業展開をすすめてもらいたいと考えます。</p> <p>また、地域へのアウトリーチによるつながりや団体とのネットワークによる支援の取組みを推進することにより、限られた経営資源を有効活用して、さらに多くの人への啓発、支援につながることを期待します。</p> |
| <p>団体と市との関係性 (効率性・有効性)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業の成果が市の施策の推進にどれだけ貢献しているか ・ 市の関与は適切か | <p>市が実施している外国人の市政案内・相談窓口や外国人市民会議等の開催と財団が実施している多言語相談事業や市民交流事業、支援事業などと役割分担と連携を図りながら、多文化共生のまちづくりを積極的にすすめてきました。</p> <p>また、震災などの大規模災害時の外国人市民等への支援を行うため、「災害時多言語支援センター設置に関する協定書」に基づき、訓練を実施しました。</p> <p>多様な団体との協働・連携によるネットワークによる支援活動を行うことにより、地域社会の構成員として、人権尊重を基調とした共に暮らすまちの実現の推進に貢献していると考えています。</p> | <p>市の多文化共生指針が掲げる理念の実現に向けて、協会がすすめている多言語相談事業や市民啓発活動、外国人市民の地域参画などについて、市の事業と連携を図りながら、同センターが多文化共生施策の拠点施設となることを期待しています。</p> <p>また、大規模災害時には、外国人市民が必要としている情報の発信拠点施設になることも期待します。</p> <p>引き続き、多文化共生の考え方を広め、先進的なプログラムに取り組みながら、本市だけでなく他機関等からの評価も高め、自主的財源の確保につながることを期待します。</p> |

総合評価

多言語相談事業においては、日頃の相談対応事例から見えた課題解決をめざした講座などを実施し、今年度も、就労、離婚、教育など日常生活に関するさまざまな内容の相談に応じました。

また、地域へのアウトリーチや関係団体とのネットワークを利用した連携事業の実施、さまざまな機会を捉えた当財団や多文化共生活動の知名度向上の情報発信をすることで自主財源の確保に努めました。

さらに、同協会内の組織体制の強化や研修会、連絡会議等を実施し、より安定的かつ発展的に業務を遂行し、多文化共生施策を推進する拠点施設としての役割を果たして、多文化共生のまちづくりに大きく寄与したと評価しています。

今後も、これまで培った市民・団体・ボランティアとのネットワークを強みにして、多くの人が参加できるような事業展開の推進に期待します。

また引き続き、地域へのアウトリーチや関係団体とのネットワークを利用した連携事業の実施、さまざまな機会を捉えた当財団や多文化共生活動の知名度向上の情報発信をすることで自主財源の確保に努めること期待するとともに、大規模災害時には、外国人市民が必要としている情報の発信拠点施設になれること、さらに本市の多文化共生のまちづくりのハブ的機能の役割を担うことを期待しています。